

演題番号 : 2

演題名 : 牛伝染性リンパ腫感染防止対策普及への第一歩

発表者氏名 : ○三橋洋貴<sup>1)</sup>、小原 剛<sup>2)</sup>

発表者所属 : 1) 秋田県北部家保、2) 秋田県中央家保

1. はじめに：近年、牛伝染性リンパ腫の発生届出頭数は増加傾向にあり令和元年には全国で 4,000 頭以上の発生が報告、本県でも発生頭数が増加。早急な感染防止対策が求められる状況の中、本県では農家の経済的損失低減と産地信頼性の向上を目的として、令和 3 年度から牛伝染性リンパ腫感染防止対策事業を開始した。中央家保（以下、家保）では地域性・品種・飼養規模を考慮し、感染防止対策効果を向上することにより、全県規模の取組に対する普及への先駆けを目指すことを目的に、対策への取組に意欲的な農家をモデル農家として選定した。

2. 材料および方法：初回検査として 6 ヶ月齢以上の飼養牛の抗体検査を実施し、陽性牛と陰性牛に分類した。導入牛については導入の都度、育成牛については 6 ヶ月齢に達した時点で検査を実施した。陰性牛は半年毎に抗体検査を実施し、陽転の有無を確認した。陽性牛は抗体検査、全血球計算、プロウイルス遺伝子定量検査結果を基に総合的にリスク評価した。検査結果に併せて乳量や血統等の個体情報を整理し農家へ還元するとともに感染防止対策の案を提示し、農場の実情に応じて選択・実施した。

3. 成績：初回検査の結果を受け、各モデ

ル農家では衛生害虫対策として防虫ネットの設置や忌避剤の装着、初乳による感染対策として初乳製剤や加温処理初乳の給与、陽性牛と陰性牛の分離飼育や頭絡の色分けによる可視化等の感染防止対策を実施。結果、効果の判定が可能な 6 農場のうち 5 農場で、初回検査時より陽性率が低下、対策への取り組みによる感染拡大の抑制を認め、高リスク感染母牛から陰性仔牛の生産に成功した農家もみられた。

4. 考察：感染防止対策による大きな効果の発現、清浄化までは長い時間を要する。したがって、農家毎に様々な方法を模索、対策を継続するよう誘導し、いかに対策への意欲を維持していくかが重要である。燃料費や飼料購入費高騰等を考慮し、農家の経営安定を優先した「無理のない」対策を継続出来るような支援や協力が不可欠となる。既存の施設や母牛を有効に活用し、非感染牛を生産・保留していくことで清浄化が期待できる。本事例は、対策による飼養牛の感染率低下を認めた、現状維持から清浄化に向けた第一歩であり、この一步を繰り返していくことで広域的な感染対策の普及、最終的には清浄化の達成に繋がるものと考えられる。